

徳島大学病院透析室の紹介

徳島大学病院は徳島の医療の中心となる病院の1つです。最近10年で延べ透析患者数は2倍以上に増加し、今年度増床（といっても4床→8床ですが）の運びとなります。病院の性質上、看護師、臨床工学技士、医師すべて若手が多く、課題は多いですが、院内のニーズにこたえるべく日々活動しています。

その中で女性の看護師、臨床工学技士、医師の果たす役割ですが、当院では、大多数は女性医療従事者によって透析室は支えられています。特に医師に関しては母親でもある2人の女性医師を中心に動いています。その理由は、単純にこの2人が経験、知識、技術だけでなく、仕事への姿勢、意欲、アイデア、管理、運営、全てに卓越しており、こちらからお願いして教官になっていただきたいような存在だからです。そういった事情から、その2人の立場（医員、診療支援医師など）と同等の立場の男性医師も含め、医局全体でできるだけオープンに状況を説明し、家庭事情による急な不在の際のバックアップや当直回数の軽減など、ある一定の規則を設定して対応しています。幸い他医局員の理解もあって、細かい問題点はあるかと思いますが、比較的良好な体制を維持できています。従って、当院は「男女共同参画を推進している」というより、「男女共同で運営している」という状況です。

自分なりに考える「男女共同参画」において重要な点は、各個人のこれまで身につけた能力の程度とその人の仕事に対する考え方です。管理する立場からみると、当事者サイド（家庭をもつ女性もしくは男性）も、一定期間様々な臨床経験を積み、忙しくて大変な時期も経験することにより、より周囲に認識され、尊



図1 透析患者について相談中の医師



図2 増床にむけて相談する看護師と臨床工学技士

重される立場になるでしょう。また、プライバシーを遵守する必要があるものの、他の医師の理解と協力を得るために、最低限の生活状況は周囲に伝えざるをえないと思います。逆の立場の方（まだ家庭をもたない方）は、各個人の生活を守り、オンとオフをはっきりさせるために、相談すべきところは相談しつつも、自分で対応できるところはきっちりこなすといった自立の意識が必要かと思います。結局は、皆、各々の生活があります。各自の生活が充実していれば、お互いの状況に気を配る余裕が生まれます。そして各々が自己の能力を伸ばすこと、自分にできる仕事を確実にこなすことを常日頃から徹底することが必要です。同時に相互コミュニケーションを心がけることにより、お互いの事情をある程度共有し、尊重し、仕事のカバーをシェアすることによって、お互いに楽になります。ひいては患者さんに対するケアもよりよくなるでしょう。

管理者の役割も大事かと思います。理想としては、各々から情報を収集し、そのときの事情に応じた規則を策定し、必要時、自ら動く姿勢をもつことが必要かと思うのですが、実情は、とくに筆者は発展途上です。当院では週日は毎朝病棟回診をしますが、その日にいる全医師が参加してくださることにより、管理者の仕事の手助けをしてくださっています。

今後の課題としては臨床、教育、研究を担う大学という施設において、当院の女性医師のような臨床に秀でた人材が評価され、より幅広く活躍していただける立場を構築し、家庭をもつ女性の意見を取り上げやすくすることなのですが、なかなか難しいのが現状です。

今回「当施設での男女共同参画の推進」についてお話をいただき、上記のように、とくに当施設は女性医師に恵まれているのでどう表現すべきか悩みましたがせっかくの機会ですので記載しました。あくまで個人的な見解も多いかと思いますが不愉快な点がありましたらお許しください。

土井俊夫、長井幸二郎

(徳島大学医学部腎臓内科学分野)